

御幸橋ハ畏クモ明治天皇ノ初メテ渡御遊バサレタイフ光荣アル歴史ヲ有シ

旅人を憐れみかけて 無賃橋 深き心を 流す愛知川



令和3年度  
夏季  
特別展

# 愛智河架橋略史

— 無賃橋と御幸橋 —

愛知川無賃橋190年・御幸橋架替60年記念  
愛荘むら芝居「愛智河架橋物語」連携企画

右上／御幸橋（1891年撮影） 右下・左上／小澤華嶽筆 愛智河架橋絵巻（部分）江戸時代後期 愛荘町指定有形文化財 左下／御幸橋親柱（1926年頃撮影）

令和3年

07.17.土

08.27.金

10時～17時（入館は16時30分まで）

休館日：月・火曜日（8月9日は開館）

入館料：一般300円（250円）小・中学生150円（100円）  
※（ ）内は20名以上の団体料金

無料入館日：8月14日（土）・15日（日）

協力：愛荘町立ハーティーセンター秦荘

後援：朝日新聞大津総局 中日新聞社 産経新聞社  
滋賀報知新聞社 京都新聞 毎日新聞大津支局

読売新聞大津支局 NHK大津放送局 **BS**びわ湖放送

## 愛荘町立歴史文化博物館

〒529-1202 滋賀県愛知郡愛荘町松尾寺878番地 Tel.0749 (37) 4500

ご観覧にあたり、新型コロナウイルス感染予防・拡散防止に伴う皆様のご理解とご協力をお願いします。

●発熱・咳込み等の症状がある方は観覧をお控えください。 ●マスクの持参・着用をお願いします。 ●手洗い・手指のアルコール消毒にご協力ください。

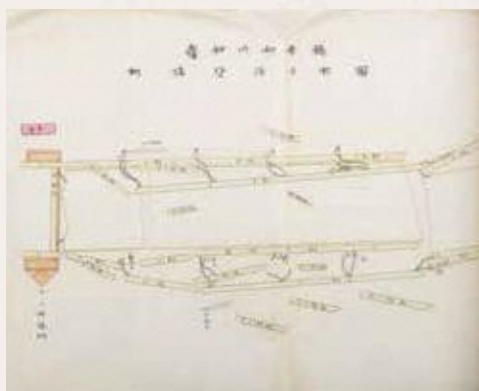
# 愛智河架橋略史

## — 無賃橋と御幸橋 —

江戸時代、頻りに洪水を引き起こす「暴れ川」として知られていた愛知川。当時、人々は愛知川を渡るために、川渡しを業とする川越人足や仮設の橋（勸進橋）を利用していましたが、路銭を持たない旅行者は自力で川を渡ろうとし、水かさの増した急流に飲まれ溺死する事例がしばしば起きました。当時の愛知川が「人取り川」の異名を取る由縁です。

天保2年（1831）、愛知川村の成宮弥次右衛門（忠喜、1781-1855）は、近村の素封家らとともに、銭を払えない人々でも渡橋できる無賃橋（太平橋）を愛知川に架橋します。架設資金の調達や金銭的補償など、橋の完成までの道のりは険しかったものの、渡橋式は大勢の人出で賑わいました。

展覧会では、無賃橋の架設にまつわる古文書や絵巻のほか、その系譜に連なる「御幸橋」に関する資料を展示します。また、弥次右衛門の妻である八千代の姉で、江戸時代後期の「桜花」の女流絵師、織田瑟々（しつしつ、1779-1832）の作品もあわせて公開します。



御幸橋桁構墜落平面図

明治24年（1891）10月26日 滋賀県立公文書館蔵  
滋賀県指定有形文化財「滋賀県行政文書」



織田瑟々筆 三芳野桜真図

19世紀前半 個人蔵（前期展示：8月6日まで）



鄭元偉撰 太平橋記

天保13年（1842） 当館蔵

成宮弥次右衛門・  
塚本助一画像（部分）  
元治元年（1864）冬写  
当館蔵



### 展覧会構成

- 第1章 御幸橋小史（明治・大正期）
- 第2章 愛知川を越える
- 第3章 無賃橋の架設
- 第4章 瑟々-成宮家ゆかりの画人-

### 展示解説

日時 | 令和3年8月1日（日）・22日（日）  
11:00～11:30 / 14:00～14:30  
場所 | 歴史文化博物館 企画展示室  
参加費 | 無料（要入館券）

### 関連公演

## 愛荘むら芝居 愛智河架橋物語

【日時】 令和3年12月11日（土）14:00開演  
【チケット発売日】 令和3年9月11日（土）から発売  
【場所】 ハーティーセンター秦荘 大ホール  
【料金】 一般500円  
【申込み・問合せ】  
愛荘町立ハーティーセンター秦荘  
☎0749(37)4110 ※月曜日休館

## 愛荘町立歴史文化博物館

（金剛輪寺参道隣）

〒529-1202 滋賀県愛知郡愛荘町松尾寺878番地  
TEL.0749(37)4500 FAX.0749(37)4520  
<http://www.town.aisho.shiga.jp/hakubutsukan/>

アクセス 【電 車】JR稲枝駅、近江鉄道愛知川駅・豊郷駅から予約型乗合タクシー「愛のりタクシーあいしょう」

金剛輪寺停留所下車（詳細は愛荘町ホームページを参照）

※「愛のりタクシーあいしょう」の予約先：近江タクシー㈱ 彦根営業所 TEL.0749-22-1111

【自動車】名神「湖東三山スマートIC」より1分

